



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年2月11日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:5名

指導員:6名

テーマ 植物の冬越し

今回のテーマは冬越しの植物ということで、冬芽やロゼットに注目して回りました。

高水敷でシンジュとセンダンの冬芽や葉痕を観察しました。シンジュの葉痕はハート形でたくさんの維管束痕がみられ、葉痕のすぐ上には側芽があり、向かい合った2枚の芽鱗に覆われています。枝の先端には仮頂芽がついています。センダンの葉痕はT字形で、3つの維管束痕を目や口に見立てると動物(サル又はヒツジ)の顔のようです。側芽はシンジュと比べると大きく、細かい毛が密生しています。

堤防道路の脇の桜の仲間の冬芽も見比べてみました。いずれも芽鱗が目立ちますが、頂芽が1つだけのもので、頂生側芽が何個かついているものも見られました。

桜の木の下で、ロゼットを観察しました。ブタナとタンポポは葉の形は似ていますが、葉の厚さや毛の有無で触った感じが全く異なることを確認しました。その近くではチチコグサ、ウラジロチチコグサ、オオアレチノギクなどキク科のロゼットがたくさん見られました。日当たりのよい場所のスイバは葉が伸び始めてロゼットらしくない形状になっていました。

大野極楽寺公園の池の畔では1月頃から咲き始めるハンノキを観察しました。枝先から長い雄花序が垂れていて目立ちますが、まだこれから花粉を飛ばすものと、すでに役割を終えて落ちているものがありました。雄花序のついている枝の少し下に雌花がついています。

野鳥ではまだ赤い実が残っているクロガネモチの周りなどでツグミの姿が見られるようになりました。これまででも少数は見られましたが、やっと個体数が増えてきた感じです。

川原は堤防道路下の木竹、草が刈られて見通しがよくなり、更地の上をキジが飛んで行く姿や、川面に浮かんだオオバンやキンクロハジロ、さらに対岸の木の枝に止まったノスリの姿も見ることができました。

今季、アトリやマヒワの群がきていないためか、大野極楽寺公園のアキニシの木には翼のある実がたくさん残っており、カワラヒワの群が来て啄んでいました。

風もなく暖かな日だったので、蝶が飛ぶかと気を付けていましたが、出現しませんでした。来月には蝶や甲虫などが見られ、ウグイスの囀りも聞かれそうです。(報告:齋竹)



(ロゼットを観察しているところ)

<その他観察できたもの>

鳥:トビ、キジバト、モズ、ヒヨドリ、シロハラ、アオジ、メジロ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ベニマシコ(声)、ジョウビタキ(声)、シメ(声)、ウグイス(声)

花:ニホンタンポポ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ソシンロウバイ、ウメ、ミヤマウグイスカグラ、ボケ



シンジュの葉痕と冬芽



ブタナのロゼット



ハンノキの花



まだ残っているアキニシの実